



那須塩原市にあるもう一つの博物館

田園空間博物館だより なすの大地

第36号

2020年9月発行

◎当誌は「那須野が原西部田園空間博物館運営協議会」の広報誌です。当運営協議会は「那須野が原西部田園空間博物館」の管理、運営を行っています。

「那須野が原西部田園空間博物館」とは

那須野が原西部地区（西那須野地区、塩原の横林・接骨木地区）の豊かな自然や疏水・開拓にまつわる史跡などを田園空間に広がる展示物（サテライト）に見たてて、『屋根のない博物館』として地域全体をとらえ、その地域に暮らす方々が中心となって保全・活用・復元し、地域の活性化を目指すもので、県内では唯一の博物館です。

総合案内所が、那須野が原博物館に併設されており、パンフレット、大型パネル等により当博物館の案内をしています。

1 サテライトについて

サテライトは地域ごとにフットパス（巡回ルート）で結ばれ、ルートを巡って、散策を楽しむことができます。数あるサテライトからいくつか紹介させていただきたいと思います。

①さんさん通り



さんさん通りは、1987年（昭和62年）に子供たちが自然と触れ合える体験学習の場となるよう、整備された400mの通学路です。

三島小学校では、水土里（みどり）ネット那須野ヶ原や田植唄保存会などの協力を得て「田んぼの学校」や「めだかの学校」といった自然や環境の大切さを体験して学べる取り組みを行っています。（三島地区・三島）

②会津中街道一里塚



会津中街道一里塚は、県道折戸線と那須疏水が交差する100m手前にある1対の一里塚です。1683年（天保3年）に起きた日光大地震により会津西街道が通行できなくなったため、会津藩の廻米の輸送用街道として1695年（元禄8年）に整備されたもので、雑木林と牧草地に埋もれていたものを保全したものです。（横接地区・横林）

③大山墓所とモミジ並木

大山墓所は、大山巖本人のほか、捨松夫人や小説「不如帰（ほととぎす）」の浪子のモデルとなった娘 信子など大山家の人々が埋葬されています。

モミジ並木は、大山墓所の参道に植えられた約200mのモミジ並木です。1917年（大正6年）に宮内省技師 山本直三郎の設計により植樹されました。現在は市の天然記念物に指定され、大山公園として整備され、人々の憩いの場となっています。（大山地区・下永田）



モミジ並木



大山墓所

なお、サテライトの詳しい場所については、地域ごとのフットパス（巡回ルート）を示したサテライト地域マップまたはサテライトガイドブックをご覧ください。ぜひマップを片手にサテライトを訪れてみてはいかがでしょうか！

- ・サテライト地域マップは地域別に7種類あり、下記公民館でそれぞれ管内のマップを配布しています。
- ・サテライトガイドマップについては、下記公民館および市役所各庁舎で配布しています。

配布場所

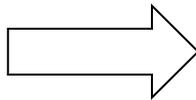
総合案内所、西公民館、狩野公民館、三島公民館、西那須野公民館、大山公民館、南公民館、運営協議会事務局 ※横林・接骨木地区のマップは西那須野支所産業観光建設課（運営協議会事務局）にて配布

○「西遅沢の出釜湧水地」の災害復旧工事が行われました

令和元年度台風19号により崩落していた下流水路部分について、復旧工事が行われました。特に被害のひどかった法面部分については、じゃかご（玉石を詰めたネット）が設置され、より安全に散策できるようになりました。



被災時



復旧後

○乃木清水での倒木処理について

7月15日、長雨の影響により、大山コミュニティの乃木清水において倒木が発生しました。倒れた樹木は太さ1m程、木橋の一部にかかっていることから、木道の一部を進入禁止としていましたが、市の都市整備課にて倒木処理を実施しましたので、現在は問題なく通行できるようになりました。



倒木発生時の状況

2 「那須野が原西部田園空間博物館運営協議会」について

西那須野地区の6つのコミュニティ（西、狩野、三島、中央、大山、南）と塩原の横林・^{にわとこ}接骨木地区（横接地区コミュニティ）と関係団体を主なメンバーとし、那須野が原西部田園空間博物館の管理・運営や様々な普及活動を行っています。

○サテライトの清掃活動を行いました

（西地区コミュニティ）7月29日に、那須開墾社第二農場跡の清掃活動が行われました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、コミュニティ活動が制限されていましたが、作業前の健康チェックを行い、事後の手洗いを徹底するなど、感染症対策を講じながらサテライトの清掃活動を行いました。



那須開墾社第二農場跡の清掃活動

(南地区コミュニティ) 7月26日に親王台の清掃活動が行われました。コミュニティでは、活動にあたる会員の安全を考慮し、感染症対策を十分にとりながら除草作業やゴミ拾いに精を出しました。



親王台の清掃活動

(狩野地区コミュニティ) 8月9日、津室川湧水地と西遅沢の出釜湧水地の清掃活動が行われました。年度前半にコミュニティ活動が制限されていたことや、周辺での伐採作業が重なったこともあり、相当な量の雑草が伸びていましたが、コミュニティの会員が力を合わせ、木道部分や園地の清掃を行いました。



津室川湧水地の清掃活動



出釜湧水地の清掃活動



3 令和2年度の主な協議会の活動

- 5月27日 総会開催
- 6月～10月 サテライト清掃活動(各コミュニティ)
- 9月20日 広報誌「なすの大地」第36号発行
- 10月8日～10月14日 小学生サテライト絵画展(那須野が原公園緑の相談所)
- R3年1月15日～24日 小学生サテライト絵画展(那須野が原博物館)
- 1月26日～2月1日 小学生サテライト絵画展(那須野が原公園緑の相談所)
- 3月20日 広報誌「なすの大地」第37号発行



サテライト絵画展

※新型コロナウイルスの感染が拡大した場合、上記活動の一部を中止することがありますのでご了承ください。

◎展覧会のお知らせ

第11回小学生サテライト絵画展(令和2年10月～令和3年2月開催)

今年度も博物館の対象地域内(西那須野地区、塩原の横林・接骨木地区)の小学校の5～6年生を対象にサテライトの絵画展を開催いたします。

各小学校からご応募いただいた作品は、上記の日程で各会場に展示予定です。

(スペースの都合上、会場によっては一部作品のみの展示になります。)

また、新たな取り組みとして、田園空間博物館のインターネットホームページの特設ページにて、ご応募いただいた作品を公開いたします。

ぜひこの絵画展をきっかけに、一人でも多くの方にサテライトを訪れていただき、田園空間博物館に興味をお持ちいただければ幸いです。

4 特集 シリーズ

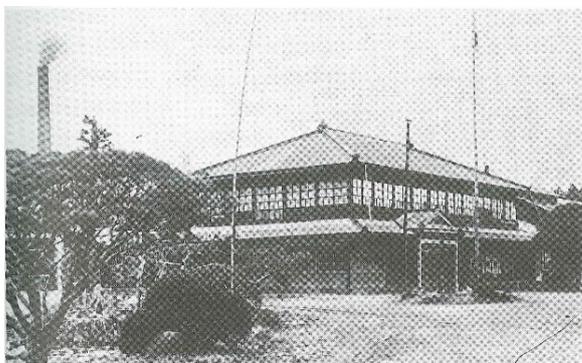
「那須疏水」（世界かんがい施設遺産）以前の 那須野が原西部地区の湧水と小川あれこれ

中央地区コミュニティ

中央地区は地区内にJR西那須野駅・市役所西那須野支所等があり、西那須野地区の中心に位置しています。この地区には那須疏水の第三分水（通称深川堀）が流れており、国道4号線や東北本線を横切り、大田原市深川赤堀まで流れているものです。この水はかつては周辺の生活水・農業用水として利用されていました。

この疏水の土手が崩れやすいため、駅前から通称五差路まで桜の木を植えたことから「桜通り」と呼ばれました。昭和45年に桜も切られ、道路を拡張し歩道を設置したことにより、疏水は暗渠となったため、現在はその流れを直接見ることはなくなりました。

五差路から円光寺へ向かう道は「疏水通り」と言い、疏水が暗渠化されたことから、水車など疏水の面影を残そうと、旧魚菜市场跡地に疏水パークが設置され、現在では人々の憩いの場となりました。



昭和17年頃の大和製糸工場

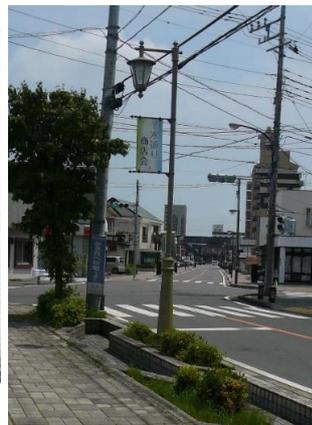
また、五差路の周辺にはかつて大和製糸工場があり、この地区の基幹産業となっていました。ここでも疏水の水が活用されており、疏水から引いた水は「製糸の池」と呼ばれた溜め池に導き入っていました。この池では夏には水遊び、冬にはスケート（氷滑り）をしたりと、当時の子どもたちにとっては格好の遊び場となっていました。

JR西那須野駅には、シンボリックな黒松がありました。これも第三分水の土手に植えられたなごりの松でしたが、駅西口整備事業により伐採されてしまいました。しかし、この時の松の実から芽を出した松は、今でも大切に育てられています。

（文責：企画広報部会）



昭和35年頃の五差路と桜通り



五差路から桜通りを望む
（西大和）



疏水パーク（西大和）



かつての疏水ゆかりの黒松
（平成12年頃）

那須野が原西部田園空間博物館運営協議会

◇発行・問合せ先◇

Tel 0287-37-5108（事務局：那須塩原市西那須野支所産業観光建設課内）

◇HPアドレス◇

<http://www2.city.nasushiobara.lg.jp/denkuu/>

サテライトの紹介、当協議会のイベントなどはホームページでもご覧になれます。

※当誌は那須塩原市の公民館で配布しておりますので、希望される方は各公民館までお問い合わせください。